

家庭

第5学年

育成を目指す資質・能力【課題発見・解決力】

題材名

## 吉田小スッキリ☆ピカピカ大作戦

～清掃の達人になって、吉田小学校をピカピカにしよう～

### 【題材の概要】

第6学年環境委員会からの清掃についての課題提起、清掃への取組状況の児童と職員の意識のずれから、児童は清掃についての課題意識をもちます。学校内の汚れ調べや汚れの観察、ゲストティーチャーからの学び等、体験的な活動を行い、「自分たちの学校をスッキリ☆ピカピカにしよう!」という目標に向けて学習に取り組みます。

### 学習指導要領における領域・内容

- C 快適な衣服と住まい (2) ア
- D 身近な消費生活と環境 (2) ア

### ◆題材の目標

- ・ 清掃に関心を持ち、場所や汚れに応じた清掃の仕方を調べるなどして清掃に取り組もうとしている。
- ・ 身の回りを点検して課題を見付け、汚れ方に応じた清掃の仕方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。
- ・ 汚れの種類や汚れ方に応じた清掃ができる。
- ・ 環境に配慮した物の使い方や生かし方ができる。
- ・ 汚れの原因や清掃の必要性、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について理解している。
- ・ 環境に配慮した物の使い方や生かし方を理解している。

### ◆題材の展開 (全9時間)

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>課題発見, 課題の設定 (1)</b>		
清掃についての自分たちのアンケート結果を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の清掃は時間を守って黙々がんばっている。</li> <li>○気持ちよくするために清掃は大切だし必要だ。</li> <li>○清掃って時間がかかるし、めんどうだよな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童のアンケート結果を提示する。 (「清掃をがんばっている」9割)</li> <li>■ 教職員のアンケート結果を提示する。 (「児童は汚れを見付けて清掃をしている」3割, 「児童の清掃に期待したいことがある」9割)</li> <li>■ 「次期最高学年として、後輩を引っ張り、ずっときれいな吉田小であってほしい」という第6学年からの声かけによって、慣習化している自分たちの清掃について振り返り、高学年としての清掃に意識を向ける。</li> <li>■ 自分たちの清掃への意識のズレと可能性を自覚させ、「自分たちの学校をスッキリ・ピカピカにしよう!」という目標に向けて学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
清掃についての教職員のアンケート結果と第6学年環境委員会の最高学年としての清掃への思いを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○決まった手順で清掃できているけど、自分で汚れを見付けて清掃できていなかったんだ。</li> <li>○自分たちの清掃は何が足りないのだろうか。</li> <li>○吉田小のよき清掃のバトンを引き継いで、6年生の思いに応えたい。</li> <li>○決まり事だから清掃をしていたけれど、なぜ清掃をしないといけないのだろうか。</li> <li>○決まり事として清掃をしていたなあ。</li> <li>○自分たちで工夫して学校をきれいにする清掃ができていなかった。</li> </ul>	
課題意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜ清掃を毎日していく必要があるのだろうか。</li> <li>○清掃をもっと自分たちで工夫して、身の回りをきれいにできないかな。</li> <li>○どうしたらもっとよりよい清掃ができるようになるかな。</li> </ul>	
	<p>第6学年からの課題提起、児童と教職員のアンケート結果の比較から、自分たちの清掃への意識のずれと可能性を自覚する。</p> <p>清掃リーダーとして他学年に清掃の大切や工夫を伝えたいという気持ちが高まってくる。</p>	
<p>吉田小の清掃の名人になって、清掃リーダーとして他学年に清掃の大切さや仕方の工夫を発信し、吉田小学校をスッキリ・ピカピカにしよう。</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>情報の収集（５）</b>		
<p>身の回りの汚れの種類や汚れ方のちがいを調べる。</p>	<p>○汚れの種類や汚れ方は、場所によって違うんだ。 ○玄関は、多くの人が入り出すので、砂やどろの汚れが多いんだね。 ○汚れには、上にのっているもの、くっついていてるもの、染み込んでいるものがあるんだ。</p> <p>「校内での汚れ調べを通して、今まで意識することのなかった汚れに気付くようになる。」</p>	<p>■校内での汚れ調べ活動を通して、様々な汚れに気付かせ、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考えさせる。</p>
<p>汚れを観察し、清掃の役割を考える。</p>	<p>○清掃したら気持ちがよくなるだけでなく、健康にもいいんだね。 ○かびやダニが発生し、アレルギーの原因や病気になることもあるんだ。 ○毎日清掃をすることで、シミになることを防いでいたんだ。 ○汚れは時間がたつと落ちにくくなるんだ。 ○よし、学校や家を清潔に保つぞ。</p> <p>「清掃の必要性が分かり、自分達で何とかしたいという気持ちが高まってくる。」</p>	<p>■単に汚れの知識だけでなく、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせ、今後、家庭や地域など様々な場面で活用できるようにする。</p> <p>■清掃の役割を科学的に捉えさせることで、清掃を新たな視点で見直す視点を与える。</p> <p>■「清掃の必要性」、「汚れに応じた清掃の必要性」、「工夫した清掃の必要性」を感じさせる。</p>
<p>清掃の技を収集し（書籍、インターネット、インタビュー、ゲストティーチャー）、汚れの種類や汚れ方に応じた様々な清掃の仕方を理解する。</p>	<p>○高い所から清掃するには、理由があったんだ。 ○いろいろな清掃の仕方があるなあ。 ○窓ガラスは、新聞紙を使って拭いたらきれいになるんだって。 ○ほこりがひどい時は、濡らした新聞をばらまいて掃くといいんだ。本当にきれいになるのかやってみたいなあ。</p> <p>「汚れの種類や汚れ方に応じた清掃への意識が高まり、工夫した清掃がしたいと思うようになる。」</p>	<p>■調べ学習をしているいろいろな方法に気付くだけでなく、なぜその方法なのかを科学的に理解させる。</p> <p>■ねらいを達成するために、清掃道具レンタル会社のゲストティーチャーと綿密に打ち合わせを行う。D(2)「環境に配慮した生活の工夫」の学習との関連を図るため、ゲストティーチャーには、市販の清掃用具や洗剤を使わずに工夫して清掃する方法や不用品を活用した方法について触れるように依頼する。</p>
<p>集めた情報を生かして、学校内の汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考え、身の回りのものを使った清掃用具等の準備を行う。</p>	<p>○友達の方法も試してみたいな。 ○身近なもので清掃用具を作ってみよう。 ○細かいところまで清掃をしたいから、古歯ブラシを用意しよう。 ○おばあちゃんから聞いたアクリルたわしやピカピカ棒を作ってみよう。 ○環境のことを考えて、洗剤を使わずに、重曹で清掃してみよう。</p>	<p>■清掃の工夫には、不用品を使った清掃用具を用いることで、環境教育の視点も大切にする。</p>
<p>計画・準備したことを生かして汚れに応じた清掃を行う。</p>	<p>○工夫した清掃用具できれいにできた。 ○今までよりもきれいになった。 ○この汚れは、どうやったら落ちるのだろうか。</p> <p>「自分たちが工夫した方法で、汚れが落ちたことにより実践する喜びを感じている。」</p>	<p>■児童が課題を解決できた達成感や実践する喜びを味わい、次の課題に主体的に取り組むことができるようになる。</p>
<b>整理・分析（１）</b>		
<p>清掃を振り返り、成果と課題を明確にして、更に工夫できる点を見付け、活動したことを整理する。</p>	<p>○友達の行った清掃の工夫を自分も取り入れてみたよ。 ○汚れがとれなかったよ。どうすればよかったのかな。 ○冬休みの大清掃に生かしてみたい。 ○とれない汚れもあったから、早めに汚れをとることも大切だ。</p> <p>「新たな疑問が生まれ、次の課題に主体的に取り組もうとしている。」</p>	<p>■実践したことを評価・改善したりするため、グループや学級内で交流するなどの活動を行い、児童が考えを広げたり深めたりできるようにする。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p style="text-align: center;"><b>実行（家庭での実践）</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>学習したことを生かして家庭での清掃に取り組む。(冬休み)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p>○家族の人は、いつもこんなにきれいにしてくれていたんだ。 ○今まで落ちなかった汚れが落ちて、家族の人がすごく喜んでくれた。 ○台所の汚れは、学校の汚れとは少し違うぞ。どうやったらきれいになるのだろう。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">学校での学びを家庭でも生かそうとしている。</p> </div> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■家庭や地域での実践として展開できるようにするために、児童の家庭の状況に十分配慮し、家庭や地域との連携を図るようにする。</li> <li>■家庭での清掃の経験を基に、そこを使う家族の気持ちを想像したり、協力して清掃をした感想を聞いたりするなど、実践する喜びや家族との関わりを感じさせる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>振り返り（2）</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>家庭での実践を振り返り、これからもよりよい清掃を続けていくために必要な視点を整理する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p>○学校で行った清掃の工夫を家でもしてみたら、きれいになったよ。 ○汚れに応じた清掃が大切だし、清掃用具を工夫していくことも大切だな。このことを他の学年のみんなにも伝えていきたいな。 ○なぜ、清掃をしないといけないのかもすっかり伝えていかないといけないな。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">自分たちの実践を、吉田小のみんなに伝えていきたいという思いが高まる。</p> </div> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■「冬休み大清掃チャレンジ」の成果と課題を報告し、みんなに伝えたい清掃の工夫や、解決できなかった課題、課題への改善策について交流を行う。</li> <li>■「吉田小スッキリ☆ピカピカ大作戦」に向けて、これまでの学習を振り返り、よりよい清掃を続けていくために、具体的に全校にどのようなことを伝えていけばよいかを考えさせる。その際、「清掃の必要性の理解」、「清掃の仕方の技能習得」、「清掃道具の工夫」をポイントとして押さえる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>まとめ・創造・表現（校内への発信）</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>全校に清掃の仕方を説明したり、各学年に手作り清掃用具を配ったりして、清掃の必要性やよりよい清掃の仕方を発信する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p>○清掃は単に汚れを取り除くだけではなく、衛生面のことを考えても大切なんだ。 ○清掃の必要性を吉田小のみんなに伝えて、清掃のやる気を高めるぞ。 ○工夫した清掃用具をみんなにも使ってもらいたいな。 ○来年は最高学年として、吉田小の清掃を引っ張っていくぞ。 ○親に任せていた清掃を進んでやるようになった。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">これからも学校や家庭、地域で何ができるかを考え、行動していこうとしている。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>清掃ボランティアとして下学年と清掃を一緒に行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>環境委員会の第6学年から思いを聴いたり、ゲストティーチャーの方から吉田小学校の清掃の仕方についての評価を聴いたりして、題材で身に付けた力を振り返る。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■体験的・実践的な活動の後に振り返りをていねいに行うことで、実践の成果と課題を明確にし、見いだした課題を解決する場を多く設定する。それにより、問題を解決する経験を積ませ、生活場面で生じる様々な問題に対する問題解決能力を育む。</li> <li>■全校児童の前で、発表する場を設定することで、学習のまとめをするとともに、次期最高学年としての意識を高める。</li> </ul>

## 【児童生徒の変容】

本題材の導入において、児童は、第6学年環境委員会からの清掃についての課題提起、清掃への取組状況の児童と職員の意識のずれから、清掃についての課題意識をもつことができた。このことにより、清掃を児童が自分ごととして捉え、「吉田小スッキリ☆ピカピカ大作戦」に向けての原動力となり、児童の主体的な学習につながったと捉えている。また、本題材では、児童は様々な方と関わりをもつことができた。導入において6年生、本校職員と関わり、展開の掃除の仕方とまとめの評価では、清掃道具レンタル会社の方々と関わった。「冬休み大清掃チャレンジ」では、清掃に協力してくださった保護者、さらには「スッキリ☆ピカピカ大作戦」で異学年と関わった。児童はこのような関わりを通して、清掃に関心をもつとともに、汚れの原因や清掃の必要性、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について理解し、実践することができた。また、環境に配慮する大切さにも気付くことができた。そして、学んだことを異学年に伝える場を設定することで、「相手に伝えているだけでなく、清掃の大切さを自分にも言い聞かせているような感じがしました」（児童の振り返りより）と、学んだことが更に定着できたことを児童自身にも感じさせることができた。清掃の効果を試したり、改善策を見付けたりという児童同士の協働的な学びも、課題発見・解決力の育成に効果的であったと捉えている。

音楽

第4学年

育成を目指す資質・能力

【思考力・判断力・表現力】【主体性・積極性】

題材名

## 「つくろう！」

### ぼくたち・わたしたちの“寿限無～JUGEM～”！」

【題材の概要】

児童は、学習発表会で“寿限無～JUGEM～”を劇で演じることとなり、練習を進める中で、場面展開する際に音楽を入れたらよいことに気が付き始めました。児童がどのような音楽を入れたらよいか考える中で、自分たちで場面に合う音楽をつくったらよいことを思い付き、様々な音楽を聴いて音楽の特徴を捉え、捉えた特徴を生かして音楽づくりに取り組んでいきました。

学習指導要領における領域・内容

A表現 (3)音楽づくり イ

他教科等との関連






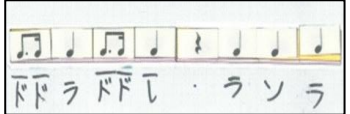
特別活動

◆題材の目標

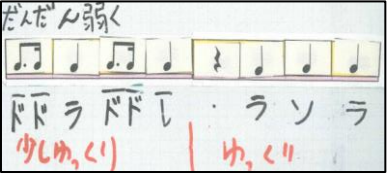
音楽の仕組みを生かして劇の場面に合う音楽をつくることに興味・関心をもち、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じながら、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもって、音楽の仕組みを生かして音楽をつくる。

◆題材の展開（全7時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>学習発表会で行う劇の内容を知り、見に来た人を楽しませるために、自分たちができる工夫はないか話し合う。</p>	<p>○「寿限無」を劇でやるんだ。面白いお話しだね。古典落語って面白いんだね。 ○どんな工夫ができるかな。衣装を工夫したら見る人を楽しませることができそうだね。 ○セリフの言い方も、気持ちを込めて言わないと、見に来た人を楽しませることができないよね。 ○劇の場面や登場人物の気持ちを伝える方法って他に何かないかなあ。 ○音楽があるといいんじゃないかな。 ○確かにアニメやドラマにも音楽って必ずあるよね。 ○「寿限無」にはどんな音楽が合うかな。「寿限無」に合う音楽って、なかなかないよね。 ○「寿限無」に合う音楽を、自分たちでつくろうよ。</p>	<p>【特別活動】学習発表会を想起させる。</p> <p>■（事前の取組）学級活動の時間で、学習発表会について話し合い、見に来た人を楽しませる劇にするためには、どのような工夫ができるか出し合わせる。その際、音楽に着目させるよう促す。</p> <p>■事前に、どのような音楽をつくらせたいか、教師自身が場面に合う音楽をつくってみておく。</p>
<b>課題の設定（1）</b>		
<p>劇“寿限無～JUGEM～”の各場面では、どのような音楽が合うか考え、話し合う。</p>	<p>○ぼくたちのグループは、男の子が誕生した場面を担当するから、喜んでいる感じの音楽をつくりたいな。 ○私たちのグループは、長い名前を紹介した後の音楽だから、ちょっとおもしろい感じが出るといいな。</p>	<p>■自分の担当する場面からイメージする言葉を理由とともに出し合い、どんな感じの音楽にしたらよいかグループで話し合わせる。</p>
<p>グループで考えたイメージに合うように試しながら音楽をつくる。</p>	<p>グループごとに、自分たちが担当する場面展開の音楽のイメージを共有する。</p> <p>○3年生の時に、ソラシの三つの音で音楽をつくったことがあるから、ソラシでつくってみよう。 ○小太鼓を入れたら楽しそうだから、小太鼓を入れてみよう。</p> <p>これまでの既習を基に、イメージに合う音楽を試しながらつくってみる。</p>	<p>■これまでの音楽づくりで学習したことを想起させ、どうやってイメージに合う音楽をつくることができそうか、見通しを立てさせる。</p> <p>■見通しを立てたことを基に、自由に2～4小節の短い旋律等をつくらせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連								
<p>音楽をつくってみたが、イメージとは合わないことに気付く。</p> <p>イメージに合う音楽をつくるためには、どのような工夫をしたらよいか、課題意識をもつ。</p>	<p>○喜んでいるイメージにしたいけど、僕たちの音楽は喜んでいるように聴こえない。つかっている音が少なすぎるのかな。</p> <p>○楽しそうだから小太鼓を選んだけど、小太鼓をつかうだけでは、楽しそうにならないな。</p> <p>自分たちが考えたイメージと、自分たちがつくった音楽にズレを感じる。</p> <p>○「寿限無」は、楽しいお話だよ。楽しいストーリーの音楽を聴いてみたいな。</p> <p>○「寿限無」は古典落語だから、日本らしい感じが出た方がいいと思うな。音楽で日本らしさってどうやったら出るんだろう。</p>	<p>■つくった音楽を聴き合い、各グループがつくった音楽はどんな感じがするか、交流する。</p> <p>■出てきた意見を、イメージにあっているところとイメージにあっていないところを板書する。</p> <p>■イメージに合う音楽にするためには、どんなことが知りたいか児童から引き出す。</p> <p>■児童から出てこない場合には、児童がイメージしている場面の言葉を用いて、「～な感じの音楽を聴いてみたら、ヒントがあるかもしれないね。」など、音楽をつくる際には、似たような音楽が参考になることを伝える。</p>								
<p><b>劇「寿限無～JUGEM～」のそれぞれの場面に合う音楽をつくろう！</b></p>										
<p><b>情報の収集（１）</b></p>										
<p>デュカス作曲「魔法使いの弟子」と「こきりこ」の音楽を聴き、音楽の雰囲気を感じ取り、音楽の特徴に気付く。</p>	<p>○「魔法使いの弟子」という曲では、魔法をかけたぼうしが水をくむ場面を表すのに、「タッカタッカ」のリズムをずっと使っているね。</p> <p>○「タッカタッカ」のリズムを反復させると、面白くてのってくる感じが出るね。</p> <p>○「こきりこ」という曲は、「ミソラドレ」の五つの音でできているんだね。</p> <p>○「ミソラドレ」と「ドレミファソ」のそれぞれの五つの音を聴き比べてみると、「ミソラドレ」の方が、日本の音楽らしさが出るね。</p> <p>場面合う音楽をつくるには、「音楽を形づくっている要素」のうち、リズム、旋律などを変化させたり、反復を使ったりするとよいことを理解し、音楽づくりに対して見通しをもつ。</p>	<p>■イメージに合う音楽をつくらせる際に、使わせたい音楽を形づくっている要素（のリズム、ミソラドレの旋律など）が分かりやすく表れている音楽を聴かせる。</p> <p>■聴き取ったことと感じ取ったことを出し合い、板書にまとめる。</p> <table border="1" data-bbox="1045 1019 1428 1243"> <thead> <tr> <th>聴き取ったこと</th> <th>感じ取ったこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・  のリズム</td> <td>・ 面白い</td> </tr> <tr> <td>・ ミソラドレの旋律</td> <td>・ 日本らしい</td> </tr> <tr> <td>・ 反復</td> <td>・ のってくる</td> </tr> </tbody> </table>	聴き取ったこと	感じ取ったこと	・  のリズム	・ 面白い	・ ミソラドレの旋律	・ 日本らしい	・ 反復	・ のってくる
聴き取ったこと	感じ取ったこと									
・  のリズム	・ 面白い									
・ ミソラドレの旋律	・ 日本らしい									
・ 反復	・ のってくる									
<p><b>整理・分析（２）</b></p>										
<p>自分たちが担当する場面に合うリズムをつくる。</p>	<p>○喜んでいる場面だから、「タタタタ」というリズムにして、音をたくさん入れたらどうかな。</p> <p>○ずっと「タタタタ」よりも、ちょっと変えた方が喜んでいる感じが出ると思うよ。こんな感じで。（手を叩いて考えたリズムを試す。）</p> <p>○このあいだ聴いた「タッカタッカ」のリズムをつかってみようよ。あのリズムは楽しい感じが出ていたから喜んでいる場面にも合うんじゃないかな。（手を叩いて考えたリズムを試す。）</p> <p>○喜んでいる感じが出てきたね。</p>	<p>■一つのグループが、4小節分の音楽をつくることを伝える。</p> <p>■考える際には、イメージに合わせているかどうかという視点で、音を出して試しながら、どのようなリズムにするか考えるように促す。</p> <p>■音の高さやリズムを操作できる音符カードを各グループに準備する。</p> 								
<p>自分たちが担当する場面に合う旋律をつくる。</p>	<p>○ミソラドレの音をつかうと日本らしくなるから、この五つの音をつかおうよ。</p> <p>○この五つの音を順番に使ってみようよ。（リコーダーで吹く。）</p> <p>○あまり喜んでいる感じじゃないね。どこか同じ音を繰り返したらどうかな。（リコーダーで吹く。）</p> <p>○少し喜んだ感じが出たよ。さっき考えたリズムに音をはめて演奏してみようよ。</p>	<p>■音が跳躍すると日本らしさがなくなることに気付かせながら、音を出して試しながらどの音を使うか選択させる。</p> 								



学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>表現、課題の設定 (1)</b>		
<p>中間発表会を行う。</p>	<p>○喜んでる場面のグループは、タッカタッカのリズムをつかっていて、楽しい雰囲気が出てきたけど、まだもの足りないな。</p> <p>○最初よりは良くなったと思うけど、喜んでる場面という感じはしないね。</p> <p>○どうしたらもっと喜んだ感じが出せるんだろう。</p> <p>○隣のグループは太鼓を入れていたね。太鼓を入れると楽しい感じになっていたよ。</p> <p>○なるほど。私たちのグループも、太鼓をいれてみようよ。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">中間発表を通して、他のグループの工夫を知り、自分たちのグループのよさや改善点を発見する。</p>	<p>■他の班の発表を聴いて、イメージや場面と音楽が合っていたか、感じ取ったことを伝え合わせる。また、音楽のどのようなどころからそのように感じたのか、聴き取ったことも合わせて伝えるように促す。</p> <p>■感じ取ったことや聴き取ったことについて、再度演奏させるなどして、音を通して全員に共有させる。</p> <p>■他のグループの意見や自分たちの気付きをもとに、場面に合う音楽にするための改善点についてグループで話し合わせる。</p>
<b>楽器の音色、リズム、強弱などを工夫して、更に場面に合う音楽にしよう！</b>		
<b>情報の収集、整理・分析 (1)</b>		
<p>場面に合う音楽にするために、改善点を生かして、自分たちがつくった音楽を更に工夫する。</p>	<p>○太鼓のリズムは、「こきりこ」で聴いたリズムを入れてみようよ。(太鼓でリズム・パターンを演奏し、つくった旋律を合わせる。)</p> <p>○太鼓が入ることで少し喜んでる場面に合う感じになったけど、このリズム・パターンは、喜んでる感じじゃないよね。</p> <p>○ここで「タッカ」のリズムをつかってみようか。(太鼓でリズム・パターンを演奏し、つくった旋律を合わせる。)</p> <p>○喜んでる場面に合ってきたね。ちょっと太鼓との音が大きすぎるからもうちょっと小さい音で演奏してみようよ。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">改善点を生かして、様々なリズム・パターンを試すなどして、新たな工夫を入れ、場面に合う音楽につくりあげる。</p>	<p>■つくったリズムと旋律を合わせて演奏しながら、楽器の音色、リズム、強弱のバランスなど、視点を広げて改善させる。</p> 
<b>実行 (学習発表会)</b>		
<b>振り返り (1)</b>		
<p>学習発表会の様子について、DVDを見ながら振り返り、自分たちでつくった音楽やつくってきた過程について振り返る。</p>	<p>○ちょっとリズムを変えたり、音の高さを変えたりするだけで、音楽の雰囲気が変わることがとても面白かった。</p> <p>○今回は喜んだ場面や面白い場面などが多かったけど、静かな場面の音楽をつくるにはリズムや音の高さをどのようにしたらよいかと思った。</p> <p>○もっと色々な楽器を入れてみたい。</p> <p>○日本の楽器だけで演奏したらもっと日本らしさが出るのではないかなと思った。</p> <p style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;">学習を通して音楽の面白さに気付きながら、今回学習した知識や技能を活用し、「また音楽をつくってみたい」という意欲をもっている。</p>	<p>【特別活動】学習発表会で披露する。</p> <p>■学習発表会のDVDを視聴し、つくった音楽と演じている場面とが合っていたかという視点で振り返らせる。また、学習を通して、もっとも工夫したこと、面白かったこと、もっと工夫したいことなどについて振り返らせる。</p>

### 【児童生徒の変容】

「自分たちが演じる劇の音楽をつくる」という自分ごととして考えられる課題であったことにより、休憩時間や放課後に練習したいという児童が多く、これまでの音楽づくりよりも主体性が感じられた。また、音符カードを操作し、音を出して試す活動を設定したことにより、音の長さについて実感しながら理解することができ、さらに、リズムや音の高さの変化の面白さを楽しんで音楽をつくることができた。振り返りでは、楽器の音色やリズムなどの視点でこれまでとは違うアイデアが出てきており、新たな発想を生み出していることから、学習の高まりがみられる。実際に、行事が終わった後に、自分たちが頑張ったことを歌にするなどして、学習したことを別の場面で活用しようとしている姿が見られた。

図画工作

第5学年

育成を目指す資質・能力 【課題発見・解決力】【主体性】

題材名

## 「ようこそ広小学校へ」～ 最高級のおもてなし～

### 【題材の概要】

児童は、学級活動で学習発表会のめあてを考えることをきっかけに、来てくださる方に「おもてなし」をしようという意識をもちます。そして、身近な「おもてなし」について考えることを通して、自分たちにもできる、「最高級のおもてなし」をするために、来てくださる方が通り抜ける空間を飾り付けようという取組を実行していきます。学校行事、学級活動と関連させた取組となっています。

学習指導要領における領域・内容  
A表現(2)絵や立体、工作に表す活動  
他教科等との関連  
特別活動

### ◆題材の目標

「最高級のおもてなし」をするために、表現したいもののイメージを膨らませて、自分たちの思い描いたイメージが表れるように、段ボールや用具の特性を生かして意欲的に表し方を工夫したり、互いの作品を交流しながら、表現の意図やよさや面白さを味わったりすることができる。

### ◆題材の展開（特別活動2時間、図画工作科9時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>特別活動(2)</b>		
<b>課題の設定(1)</b>		
<p>学習発表会のめあてについて考え、それを成功させるために自分たちにできることを考える。</p>	<p>○自分たちの力を高めて、いいものを見てもらいたい！演技の練習は最後まで全力で頑張ろう！！</p> <p>○家族や地域の人に、自分たちの力を感じ取ってもらいたいな。演技はもちろん頑張るけど、それ以外にもできることはないかなあ？</p> <p>学習発表会のめあてを考えることで、演技での工夫と演技以外で自分たちにできる工夫について気付く。</p>	<p>■来てもらった方に喜んでもらうために、何ができるかを考えさせることで、演技以外に自分たちにできないかを考えさせるようにする。</p> <p>■東京オリンピックが開催させることに触れ、その準備として国内では海外から人を招き入れるために、どのような動きが出ているかについて、テレビ等で見たことを基に思い出させることで、「おもてなし」という視点で、学習発表会を成功させるためにできることを考えさせる。</p> <p>■自分の家や身の回りの「おもてなし」について考えさせることで、いつも学校の様々な場所に飾ってある「花」に着目させる。</p>
<p>学習発表会に向けて、たくさんの人を学校にお招きするという視点で、自分たちにできることを考える。</p>	<p>○そういえば、東京オリンピックでは「おもてなし」って言ってたよね。東京の方では、外国の方々をお招きできるように、いろんな準備が始まってるってテレビでやってたよ。</p> <p>○来ていただく方に、満足してもらいたいからだよ。ぼくたちも学習発表会に来てくれる家族や、地域の方々に、「最高級のおもてなし」ができないかなあ。</p> <p>学習発表会に来てくださる方々への「おもてなし」という視点で、自分たちにできることを考え始める。</p>	
<p>身の回りの「おもてなし」には、どのようなものがあるかを考える。</p>	<p>○我が家では、お客さんが来る時にはきれいに掃除をするよ。</p> <p>○玄関に、飾りを置いたりしているな。</p> <p>○そういえば、ぼくたちの学校の下駄箱の上やトイレの前に、いつもかわいい花が飾ってあるよね？</p> <p>自分たちの生活の中にある身の回りの「おもてなし」について具体的に考え始める。</p>	

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>学校に飾ってある花について調査する。</p> 	<p>○あれは、誰が何のためにしてくださっているのだろうか？ ○時々、誰かが花を飾りに来てくださっているよね。見たことはあるけど…。 ○その方に、インタビューしてみようよ。</p> <p>「学校にいつも飾ってある花に着目し、「おもてなし」の視点で考え始めると共に、調査の必要性を感じる。」</p>	<p>■学校にいつも飾ってある花に着目させることで、自分たちの身近にある心遣いである「おもてなし」に気付かせるようにする。</p> <p>■いつ来られているのかを調べ、インタビューの計画を立てる。</p>
<b>情報の収集、整理・分析（1）</b>		
<p>学校に花を飾ってくれている方にインタビューをして、その思いを知る。</p> 	<p>○12年も前から来てくださっていたなんて知らなかったよ。 ○仕事に行く前に、朝早く毎週来てくださっていたんだ。大変なことだよ。 ○ぼくたちに、毎日気持ちよく登校して欲しいからだったんだ！ ○この花は、広小学校の子供たちへの、「おもてなし」だったんだね。</p> <p>「普段何気なく見ていた花には、自分たちへの思いが込められていることや、長年してくださっていたことを知ることで、自分たちへの「おもてなし」の心であることに気付く。」</p>	<p>■実際に花を飾ってくださっている方にインタビューをすることを通して、今まで気付くことがなかった、花に込められた、自分たちへの思いに気付かせる。</p> <p>■日常生活の中で、児童が見過していることに目を向けさせることで、何気なく飾ってあるものがもつ意味や、それを飾ってくださった人の思いに気付かせると共に、これからの学習活動と関連させることができる。（学校の玄関の生け花、季節感のある掲示物、廊下の絵画、公共施設や病院に飾ってある絵画等）</p>
<p>自分たちにできる、学習発表会に向けて、具体的な「おもてなし」を考える。</p>	<p>○学習発表会に向けて、ぼくたちも「おもてなし」として、学校を飾ろうよ。 ○どうやって？花はお金がかかるよ。お金がかからずに見えることってあるのかな？ ○たくさん学校にあるものを使って、何かつくって飾ろうよ！ ○新聞や段ボールならたくさんあるよ。 ○4年生の時に段ボールを切って、組み合わせる活動をしたよね！新聞紙よりしっかりしたものがつくれそうだから、段ボールにしよう！ ○よし、段ボールを使って最高級のおもてなしをするぞ！！</p> <p>「「おもてなし」のために、身近な素材で作ることはできないかを考え始め、学校を飾るという目的意識や製作意欲が高まってくる。」</p>	<p>■学校にたくさんあるものを使って「おもてなし」の飾りができないかを考えさせる。</p> <p>■既習の4学年での学習を具体的に振り返らせ、その時学んだ段ボールや用具の扱い方、表現方法を生かしてつくろうとする意識をもたせる。</p>
<b>図画工作（9）</b>		
<b>課題の設定（1）</b>		
<b>ようこそ 広小学校へ！ 最高級のおもてなし</b>		
<p>学習発表会に来てくれた方を「おもてなし」するために、どこに、何をつくって飾るのかを考える。</p>	<p>○段ボールで、どこに何を飾ろうか？ ○来てくださった人みんなが、通る場所に飾るといいよね。 ○体育館の玄関なら、みんなが通るよ！ ○体育館の中にあってもいいね！ ○飾ってある場所を通り抜けると、いよいよ始まるという感じになって気分が高まるよね。お出迎えにはびったりの場所だ！ ○それなら、それぞれの学年プログラムを紹介するような飾りにしたらどうかな。そうすれば、来てくださった人に今からどんな発表があるのか伝えることもできるよね。 ○いいね！プログラムを中心として、そこを通るとわくわくするような飾りをつくって飾ろうよ！ ○各学年の演技内容を調べないと！！</p> <p>「「最高級のおもてなし」をするという目的をもち、何をつくるのか、どこに飾るのかという具体について考え始める。 各学年の演技内容について調べる必要性を感じ、調査の計画を立てる。」</p>	<p>■実際に校内を歩き、目的に合う飾り付けの場所を考えさせる。その際、来られた方がどこを通過して体育館に入るかという動線を考え、歩かせることで、より効果的な場所を見付けさせると共に、相手意識をもたせるようにする。</p> <p>■場所が決まったら、どのような飾りにするかを、その場所、その空間で考え、互いに交流させることで、イメージをもちやすくさせる。</p> <p>■自分たちの担当する学年を決め、各学年の先生方に学習発表会のプログラムの内容について調査を行わせる。また、質問内容を話し合わせることで、飾り（作品）を製作する上で必要な視点を明確にもたせ、表現する際に生かしていけるようにする。</p>



学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>情報の収集、整理・分析、表現・創造（6）</b>		
各学年の演技内容や取組に対する思いを調査し、グループごとにつくる飾りのテーマを決めて、構想を練る。	<p>○3年生は、国語「サーカスのライオン」のお話がテーマなんだって。「じんざ」が命がけて炎の中に飛び込む場面が一番心に残っているよ。涙が出そうだったよ。その場面を表現しようよ！</p> <p>○6年生は「コンドルは飛んで行く」の合奏だって。力強く演奏したいと言っていたから、コンドルが大空を力強く羽ばたいている様子を伝えたいな。</p>	<p>■単に演技内容のテーマで作品をつくるのではなく、その中で何を伝えたいのか、そのためにどのような工夫をするのかをグループで話し合い、アイデアスケッチにかきながら考えさせる。</p>
演技内容に合わせて、どのような飾りにするのか、グループで話し合い、アイデアスケッチに表す。	<p>自分たちの体験や調査してきたことを基に、作品のイメージを考え始める。</p>	
段ボールの新たな加工や表現の方法を試しながら、自分たちの作品に使える表現の仕方について考える。	<p>○切るのは1学期に使った糸のこぎりを使えば、細かい部分も切れるね。もっと自由に段ボールを曲げたり丸めたりできないかな。</p>	<p>■既習の体験を思い出させ、板書に提示することで、段ボールの加工の仕方を活用できるようにする。</p>
グループごとに、段ボールを表現意図に合わせて、加工しながら作品をつくる。	<p>既習の体験を振り返ったり、段ボールの新たな加工や表現の方法を試したりしながら、自分たちの作品に使えるような表現方法を見付けていく。</p>	<p>■段ボールの新しい加工方法（水に浸して柔らかくして思い通りの形にする方法や、はがして波の部分を表に出したりする方法等）、については、教師が提示したり、教科書を見たりしながら全員で体験し、表現する際に活用できるようにする。</p>
	<p>○「じんざ」は炎の中に飛び込むから、たてがみは風で揺れているように表したいな。</p> <p>○命がけて男の子を助けたいと思っているから、目にもそういう気持ちが現れるようにしたい。</p> <p>○力強く羽ばたくためには、大きな翼がいるよね。羽ばたくようにするために、ふさふさとした感じで翼を表したいよ。</p> <p>○強そうなコンドルにするために、目も、くちばし、つめはするどくしたらいいな。</p>	 <p>■ワークシートと作品を比較させることで、自分たちの思いやイメージが表現できているかを確認し、更なる工夫について意見を出し合わせる。</p>
<b>実行、情報収集、整理・分析、まとめ、振り返り（2）</b>		
飾り付けをして、互いの作品を交流し合う。	<p>○コンドルが飛んでいるように見えるよ。それは、翼の毛をバサバサした感じにしているからだね。</p> <p>○大きな翼やするどいくちばしだから、とても強そうに感じるな。</p>	<p>■作品を飾った場所で互いの作品の鑑賞を行い、他のグループの表現意図や表現の工夫を考えさせる。</p>
	<p>それぞれの作品について、表現意図と表現の工夫を結び付けながら考える。</p>	<p>■なぜそう感じるのか、どの部分のどのような表現から思ったのかという根拠を明確に発言させる。</p>
アンケート結果等を基に、自分たちの活動について振り返る。	<p>○とても喜んでくださったね！来られた方だけでなく、他の学年からもお礼のコメントがあったよ！ぼくたちの「おもてなし」は大成功だったんだ！</p> <p>○来年は、6年生に代わって、自分たちが中心となって色々な活動に取り組んでいくぞ！</p>	<p>■来場者、先生方、家族等にアンケート調査を実施し、自分たちの活動を客観的な視点で振り返らせる。</p> <p>■来場者から、「各学年の演技構成に合わせた題材を、段ボールの素材の特性を生かして上手に表現されていると感心しました。協力し合い、一生懸命に手作りで作成されている姿を思い浮かべました。ありがとうございました。」や、児童から「2年生の妹が、『がんばってくれて、ありがとう。』と言ってくれて、うれしかった。」という感想があった。</p>

### 【児童生徒の変容】

学習発表会や身の回りの出来事と関連した課題設定を行うことで、次の時間が待ちきれず主体的にアイデアスケッチを行ってくる児童がいるほど学習意欲がかなり高まり、最後まで意欲的に活動することができた。「おもてなし」の気持ちの基に、身近なもので学校を飾りたいという課題意識や、各学年の演技内容を伝えるという視点を明確にもって活動したので、試行錯誤しながらどのように表現していくか根気強く考えることができた。また、自分の表現意図に応じて段ボールの特性を生かし、様々な表現方法を取り入れて工夫しながら作品をつくることができた。さらに、アンケート調査により、自分たちの作品で来場者に喜んでもらったという実感を味わうことができ、図画工作科の目標を達成するだけでなく、この活動を通して、もうすぐ最高学年になるという自覚をもつことができた。

## 「ずっとなかよし いきもの大きせん！」

### 【単元の概要】

秋の虫の鳴き声を聞き、秋の虫と仲良くなりたいたいという意欲を高めてから、虫探しに出かけます。しかし、1回目は準備なしで出かけ失敗体験を味わいます。そこから、どのようにしたら虫と仲よしになれるか、虫が捕まえられるか、虫を捕まえるためには何が必要かなどを考え、見通しをもってから2回目の虫探しに出かけます。

捕まえた虫は、捕まえた場所に似たすみかや餌のいいのではないかと予想し、よりよいすみかにするにはどんな工夫ができるかを、調べたり、友達と交流したりしながらすみかを作り、虫に親しみをもち、命を大切にすることを育てるようにしていきます。

### ◆単元の目標

校庭の植え込みや近くの野原に行って虫を探し、捕まえた虫を飼う活動を通して、すみかや餌、体の様子や動きなどに関心を持ち、生き物は生命をもっていることなどに気づき、親しみをもち命を大切にすることができるようにする。

### ◆単元の計画（全10時間）

校庭での遊びや学校の周りの探検を通して、身近な生き物に目を向けることができるようになっている。教室に舞い込んできたクワガタに名前を付けたり、世話をしたりしている児童もいる。

#### 【課題の設定（1時間）】

- ・スズムシなどの秋の虫の鳴き声を聞き、クワガタ以外にも、秋の生き物とも仲良くなりたいたいという思いや願いをもつ。
- ・家や幼稚園・保育所等で、生き物と関わった経験や、生き物について知っていることなどを出し合う。
- ・夏の探検で見つけた生き物と最近の生き物の様子の違いなどについて目を向ける。

#### 【情報の収集、整理・分析、実行（4時間）】

- ・仲良くなりたいたい虫は、どこにいるのか考える。
- ・虫探しの場所を決め、虫を探しに出かける。
- ・失敗した1回目の経験や今までの経験から、虫を傷つけずに捕まえる方法、虫捕りの準備に必要なことや物を具体的に考える。
- ・再度虫探しに出かけ、自分のやり方で試し、うまくいかない場合には友達にアドバイスを求めるなど、工夫して虫を捕まえる。

#### 【振り返り、課題の設定（1時間）】

- ・虫を捕まえた場所や捕まえ方、どうやって仲良くなりたいたいかなどについて記録カードにまとめる。
- ・虫を見せ合いながら、捕まえた虫とどうやって仲良くなりたいたいか伝え合う。
- ・仲良くなるために世話をしたいという課題をもつ。

#### 【情報の収集（1時間）（常時活動）】

- ・捕まえた虫の体の様子や動きなどを、しっかり観察する。
- ・観察して分かったことを、みつけカードにかきためていく。
- ・もっと虫と仲よしになるために、どんなことができるかを考える。
- ・どんな餌やすみかが必要なのかについて本で調べたり、家の人や先生に聞いたりして情報を集める。

#### 【情報の収集、整理・分析（1時間）】

- ・教師のつくったすみかや餌を参考にしながら、自分が飼っている虫にはどんなすみかや餌が必要か考える。
- ・なぜそのすみかや餌にしたのか、理由付けをしながらワークシートに記入する。

#### 【実行、まとめ・表現（1時間）（常時活動）】

- ・集めた情報を基に、虫のすみかをつくり、餌をあげたり、虫と遊んだりする。
- ・仲よしになった虫の特徴やすみかなどについて、グループで伝え合う。
- ・「〇〇さんみたいに、もっと上手に世話をしたい。」という思いをもち、継続して虫を飼い、様子を見たり、調べたりする。

#### 【まとめ・表現、振り返り（1時間）】

- ・これまでの活動を振り返り、できるようになったこと、分かったこと、もっとやってみたいことなどをクラスや昆虫のことを勉強している3年生に伝え、感想をもらう。

## 生物を育てるための計画と管理～福山の花 ばらを育てよう～

### 【題材の概要】

本校は「自立して社会に貢献できる生徒の育成」を学校教育目標にしており、その目標の実現を目指して全ての教育活動を行っています。技術・家庭科（技術分野）としては、「災害時に避難場所としての学校づくり」と「地域に開かれた『憩いの場』としての学校づくり」の二つの視点から授業を構成することで、その達成を図ることができると考え、題材を構成しています。

福山市は、戦後復興のシンボルとして、現在のばら公園に1000本のばらの苗を植えています。今でもその思いが引き継がれ、「100万本のばらのまち福山」を目指し取組を行っています。本題材は、「福山市の市の花」でもある「ばら」を取り入れ、「地域に開かれた『憩いの場』としての学校づくり」の視点の下、ばらの栽培とばら園の整備を行う学習活動を行うことで、生育環境が生物に及ぼす影響や、生物の育成に適する条件及び育成環境を管理する方法を知ることができるようにするとともに、社会や環境との関わりから生物育成に関する技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成していきます。

### ◆題材の目標

生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を身に付ける。

### ◆題材の計画（全13時間）

#### 【情報の収集（2時間）】

- ・作物を栽培する技術、動物を飼育する技術、水産生物を栽培する技術について知り、生活や社会で利用されている様々な生物育成に共通する技術の仕組みを理解する。

#### 【課題の設定（1時間）】

- ・福山市とばらの歴史的背景について学習し、市民のばらへの熱意に触れ、ばらを通じて“思いやり・優しさ・助け合いの心”を表す「ローズマインド」を育んでいこうという市民の想いを知ることを通して、地域へ貢献しようとする意識を高める。そして、「学校のばら園を『地域の憩いの場』として活用してもらおう」という課題を設定し、どうすればよいかを考える。

学校のばら園を地域の『憩いの場』にしよう。

#### 【情報の収集（3時間）】

- ・本、インターネット、地域のばら愛好家へのインタビュー等で情報を収集し、ばらを栽培するに当たって、様々な管理作業があることを理解する。
  - 灌水の仕方
  - 剪定の仕方
  - 追肥の仕方
  - 薬剤散布の仕方 等
- ・グループで担当するばらやばら園を観察・調査し、ばらの特性やばらを取り巻く環境要因についてまとめる。

#### 【整理・分析（2時間）】

- ・調べたことを基にグループで管理作業等の育成環境の調整方法を構想し、具体的な栽培計画を作成する。
- ・全体で意見交流を行い、栽培計画を修正する。

#### 【まとめ・創造・表現（4時間）】

- ・栽培計画を基に、グループで協働して、管理作業等を行う。また、地域のローズボランティアの方々に、技術指導をしていただく。
  - ばらや育成環境を観察
  - 灌水
  - 花殻切り
  - 追肥
  - 病虫害駆除
  - 夏剪定・冬剪定
- ・ばらや育成環境の状況を栽培レポートにまとめ、管理作業等を評価、改善及び修正を行い、全体で共有する。（情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現の各段階を往來しながら、適切な管理作業を行う。）

#### 【振り返り（1時間）】

- ・生物育成に関する技術の適切な評価と活用について考える。
- ・課題解決の学習活動を振り返り、学校のばら園が地域の『憩いの場』として、さらに充実していくよう、ばらの管理・運用の在り方について後輩に提言する。
- ・今後、「D情報に関する技術」の学習で、どのように表現・発信すれば、地域の『憩いの場』になるかを考え、情報発信を行っていく。